

ごみ組成分析調査結果（概要）

1. 調査概要

(1) 調査の目的

指定収集袋の種別（燃やすごみ・燃やさないごみ・容器包装プラスチック類の3種類）にどのようなごみ・資源が入っているか組成分析を毎年実施しています。不適物や資源化可能物の混入状況などについて確認し、ごみの適正排出を促進するための改善策等を検討するための基礎資料としています。

(2) 調査方法

市内の戸建て住宅地区、集合住宅地区および事業者地区から各1地区について、燃やすごみ・燃やさないごみ・容器包装プラスチック類の3種類の組成分析を実施しました。

調査期間 平成27年12月4日（金）～12月15日（火）

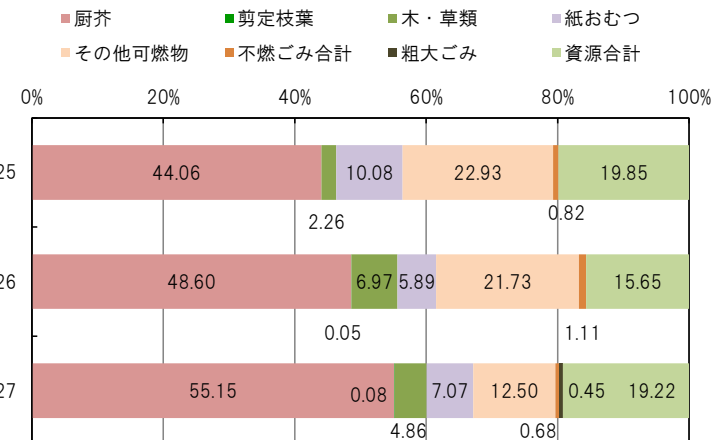
(3) 調査結果（経年変化）

①燃やすごみ

厨芥の占める割合が増加傾向にあり、平成27年度の調査では50%を超えています。ごみを乾燥させる前後の重量で比較した結果、厨芥については約80%減となり、水分が多く含まれていると考えられます。また、資源の割合も20%近くあるため、分別の徹底や生ごみの水切りなどを行うことで、さらなる減量の可能性があると考えられます。

重量比の経年変化

		H25	H26	H27
可燃ごみ	厨芥	44.06	48.60	55.15
	剪定枝葉	—	0.05	0.08
	木・草類	2.26	6.97	4.86
	紙おむつ	10.08	5.89	7.07
	その他可燃物	22.93	21.73	12.50
不燃ごみ合計		0.82	1.11	0.68
粗大ごみ		—	—	0.45
資源合計		19.85	15.65	19.22
		100.00	100.00	100.00

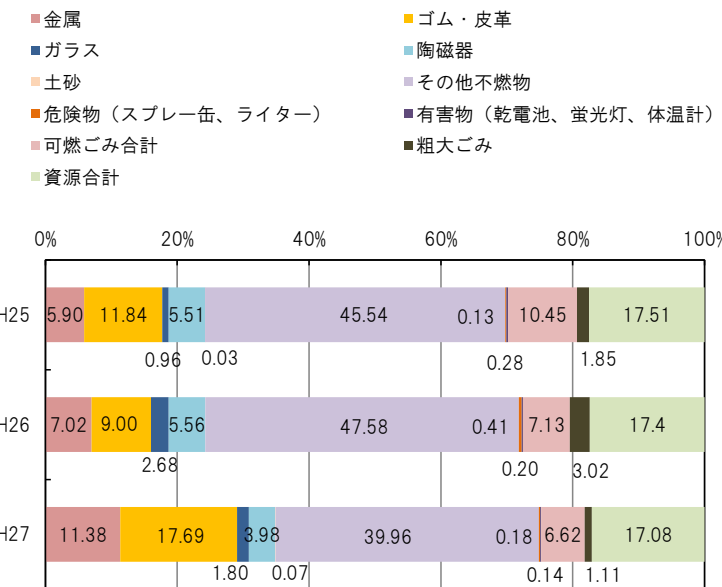


②燃やさないごみ

燃やさないごみの不適物については、可燃ごみの割合は減少傾向にあり、平成27年度の調査では約7%となっています。しかし、資源は約17%が一定量混入しており、分別の徹底が必要であると考えられます。

重量比の経年変化

		H25	H26	H27
不燃ごみ	金属	5.90	7.02	11.38
	ゴム・皮革	11.84	9.00	17.69
	ガラス	0.96	2.68	1.80
	陶磁器	5.51	5.56	3.98
	土砂	0.03	—	0.07
	その他不燃物	45.54	47.58	39.96
	危険物（スプレー缶、ライター）	0.13	0.41	0.18
	有害物（乾電池、蛍光灯、体温計）	0.28	0.20	0.14
可燃ごみ合計		10.45	7.13	6.62
粗大ごみ		1.85	3.02	1.11
資源合計		17.51	17.40	17.08
		100.00	100.00	100.00



③容器包装プラスチック

容器包装プラスチックについては、適正排出割合が80%を超えています。最も多いのはフィルム類（軟質）ですが、近年では減少傾向となっています。

重量比の経年変化

(%)

		H25	H26	H27
資源 プラスチック類	発泡トレイ	2.68	1.93	3.00
	発泡スチロール	0.44	0.94	1.20
	プラスチックボトル	5.59	9.01	8.06
	硬質プラスチック	19.87	24.75	23.40
	フィルム類（軟質）	51.24	48.28	47.33
	レジ袋	4.91	5.50	5.08
その他資源合計		2.79	1.75	2.30
可燃ごみ合計		5.68	2.65	4.26
不燃ごみ合計		6.79	5.20	5.36
粗大ごみ		—	—	—
		100.00	100.00	100.00

